

電機労働者懇談会

Electric Labor and Industry Correspondence

発行者；ELIC編集委員会谷口利男
142-0043 東京都品川区二葉2-20-8
電話(03)6421-5323 染野ビル2F
郵便振替00130-3-358078ELIC編集委員会



2021年4月10日

No 400

1部100円

「ELIC」400号を祝う！

200号では祝賀会を開催しましたが、コロナ禍で藤田教授に祝辞を頂きました。

電機労働者懇談会(電機懇)の機関紙「ELIC」の400号、おめでとうございます。ELICは月刊ですから、30年以上、倦まず弛まず、印刷以外は、記事執筆、編集、発行、郵送を自ら続けてきたのですから驚異的です。もちろん労働組合が情宣の手段として機関紙をもつのは当然ですが、大きな組織人員を抱えている企業別・産業別組合を別とすれば、労働組合ではない組織が機関紙を出し続けるのは、大きな困難を伴うと思います。しかも会員がいる電機大企業の職場で起きていることが記事になるという点では、全国レベルの機関紙ということになります。

研究者としては、電機の職場で起きているリストラや賃金制度の変更提案などが紹介されるのも魅力です。マスコミや電機連合の機関紙などでは報道されない、職場で起きていることが記事にまとめられているので、電機産業で起きている変化の端緒をつかむことができます。ELICの記事で気づかされ、詳細を電機懇のメンバーから聞きとり、さらに調査を進めて、論文にまとめたり学会で発表したりしてきました。この意味では、ELICの記事は、研究を進める上で、大きなヒントを提供してくれます。

過去のELICを見てみると、この間の電機産業をめぐる状況の変化に驚かされます。ELICの初期の頃は、まだ日本の電機産業は世界をリードする産業として勢いがありました。私が電機産業の研究を始めたのは、上(経営戦略など)からと下から(職場や労働者)の分析を総合させて、日本の電機産業の興隆の要因を探ろうとしたことに始まります。このころは、工場調査に行っても、対応してくれた技術者も自信に満ちていて、頼もしく思うと同時に一抹の不安も感じました。アメリカを中心に、エレクトロニクス産業での構造変化が起きていて、果たして日本は対応できるかなと感じたからです。

その後、2000年代にはITバブル崩壊、リーマンショック、台湾・韓国企業の台頭により、日本の電機産業は苦境に陥り、現在に至る大リストラの時代になったことはELICの紙面から感じることができます。

ELICの紙面には、闘いの記事も豊富に載っており、闘いの息吹が感じられます。記事からは「泣き寝入りしないで顔を上げて強大な資本に立ち向かう」という労働者としての意地が重要であることが伝わってきます。

それから、私が好きな紙面が「ラブラース」で、多才なメンバーの闘いとは別の生き方が紹介されています。知っている人の知らなかった面が掲載されていて意外に思うことも多くありました。これは、肩のこらない読み物として、これからも続けて欲しいと思います。

ここまで来るには苦労もあったと思いますが、更なる高みを目指してくださるよう、長年の愛読者としてもお願いいたします。(お忙しい中での記事送信に感謝！)



講演中の桜美林大学藤田教授

今月号の紙面

- ①「ELIC」400号を祝う！
- ②21春闘、前半戦を振り返る
- ③第7回三者共同「省庁交渉」
- ④2021年「電機リストラ交流会」
- ⑤賃金政策提言「オンライン学習会」
21春闘金属労働者東日本集会
- ⑥ラブラース「北朝鮮」藤崎さん
- ⑦電機情報ユニオン、青年コーナー
- ⑧第92回メーデー参加
からむすの原稿募集。集積回路